

## ●●はぐくむ●●

## 広島工業大学オープンキャンパスでのアルミニウム製品の展示 Exhibition of Aluminum products at HIT open campus 2023

桑野 亮一・日野 実  
Ryoichi KUWANO and Makoto HINO

広島工業大学では、7月16日（日）と8月20日（日）の2回にわたり、五日市キャンパスにおいて令和5年度の「夏のオープンキャンパス2023」を開催した。本年度のオープンキャンパス開催以前の5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置付けが5類へと移行された。それによって検査陽性者や濃厚接触者の行動制限がなくなり、季節性インフルエンザと同等の扱いとなり、コロナ禍以前の活発な活動の回復が感じられる明るい兆しのなかでの開催となった。ただし、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を十分に講じながら実施した。本年度の開催では、より来場者と対話できるように、対面による体験型方式を中心として、大学や学科等の魅力発信や展示などを行った。例年よりも厳しい猛暑の夏となったが、天候には恵まれ、2日間で合計約3,700名の来場者があった。

学科の展示区画内に軽金属学会、UACJ、三協立山、日本軽金属（敬称略）から提供あるいは貸与していただいた以下のアルミニウム製品を「軽金属の可能性に触れてみよう」というテーマで展示した。展示品は重量比較サンプル、KO処理板、撥水フィン/親水フィン、缶材工程サンプル、ハニカムパネル、アルミ型材の電解着色サンプル、ヒートシンク、シリンダブロックであった。来場者にとって、軽金属製品に実際に触れながら、大学の教職員や学生と対話できるように展示品を設営した。直観的な体験によって、軽金属自体の特徴やそれに施されている創意工夫などの絶妙さに触れた参加者からは、質問や活発な対話が多く認められた。重量比較サンプル比較では、金属による違いを直接触れて感じる事ができるため、高校生をはじめとする来場者から、期待通りの反応を高い確率で引き出すことができた。また、身近なアルミ缶についての加工工程とその変化がわかりやすい成形加工品では、工程の多さと形状変化の顕著さなどに驚きを示す見学者が多かった（図1）。実社会で活躍する製品に接した高校生らは、軽金属が社会で活躍するための表面処理や各種加工技術などに関心を深めていた。撥水性や親水性の発現、色彩の発現などの表面処理、薄くて軽くて強いハニカム製品など軽金属ならではのアルミニウム製品の利点などが十分に理解されたように思われた（図2、図3）。今年度の展示では、対面での体験を前提に学科の魅力と軽金属の可能性との関係の情報発信についても担当学生が創意工夫を試みた。見学者は対面と体験型ならではの理解をしてきていたようであり、ま

た、学生の社会実践力の育成にも効果が認められたように思う。

最後に、軽金属製品の提供・貸与を企画・実施していただいた軽金属学会人材育成検討WG各位ならびに各企業に心より感謝申し上げる。



図1 重量比較体験中の様子



図2 軽薄加工品の巧妙さ体験中の様子



図3 撥水/親水体験中の様子